

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年12月13日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合) [No.175]

革マル派最高幹部・東労組松崎明元会長が死去！

革マル派創設者で今日まで最高幹部であったとみられる東労組の松崎明元会長(74歳)が、12月9日23時12分、入院先の栃木県内の病院で突発性間質性肺炎のため死亡した。葬儀は家族のみで執り行った模様で、後日、「しのぶ会」を開催する予定という。「No.169」では、自ら会長を務める国際労働総研の機関誌「われらのインター」で、2010年4月発行「Vol.31」を最後に長らく記事が途絶えていることを指摘したが、松崎氏は9月末から入院加療中だったようだ。以下に、顔写真入りで報じた朝日新聞と産経新聞の記事を紹介する。

動労元委員長 松崎明さん死去(朝日新聞 12/10 夕刊)

JR東日本労組(注:東労組が正当)の初代委員長で、旧国鉄の動労でストライキなどを指揮した松崎明さんが9日、亡くなったことがわかった。74歳だった。埼玉県出身。高校を卒業後、1955年に旧国鉄に入った。61年に旧動労青年部を結成して初代部長となり、若い機関士や運転士を中心にストを辞さない過激な闘争手法で国鉄当局と激しく対立した。その後、組合活動を理由に解雇されたが動労に残り、75年の「スト権スト」など数々のストライキを指揮。スト権ストでは全国で列車を数日にわたって止めるなどし、動労は「鬼の動労」と呼ばれた。動労の委員長として国鉄の分割民営化には反対したが、その後の方針を転換。87年の民営化後はJR東労組の初代委員長として経営側とも密接な関係を保ち、上部団体の全日本鉄道労働組合総連合会(JR総連)にも強い影響力を持ったとされる。95年にJR東労組会長に就任。2001年に同顧問、02年にJR総連特別顧問。07年には、JR総連の内部組織の資金3千万円を横領したとして、業務上横領の疑いで警視庁に書類送検されたが、嫌疑不十分で不起訴となった。今年11月8日の衆院予算委員会で、自民党の平沢勝栄議員から「(松崎氏は左翼過激派)革マル派の最高幹部の一人と認識しているか」と問われ、岡崎トミ子国家公安委員長が「革マル派創設時の幹部の一人である」と答弁した。

JR 東労組元委員長 松崎明氏が死去 74歳(産経新聞 12/11 朝刊)

JR東労組元委員長の松崎明氏(74)が、入院先の病院で9日深夜、間質性肺炎で死亡したことが10日、関係者への取材で分かった。葬儀は家族葬で執り行うという。著書などによると、松崎氏は埼玉県出身。昭和30年に旧国鉄に入社。36年に動労(当時)青年部長になり、60年に動労委員長に就任した。ストライキを辞さない闘争手法で国鉄側と激しく対立。スト権奪還ストなど数々のストを指揮し「鬼の動労」とも呼ばれた。国鉄の分割民営化には反対していたが、その後は協調路線に転換。その劇的な変化から「コペルニクスの転回」と言われた。JRに移行してからは、東労組の委員長などを務め平成13年には顧問に就任。一線を退いても同労組や上部団体のJR総連に強い影響力を保持し、経営サイドとも太いパイプを持っていたとされる。松崎氏をめぐってはJR総連の関連資金約3千万円を着服したとして平成19年に警視庁が業務上横領容疑で書類送検。東京地検が嫌疑不十分で不起訴処分とした。過激派「革マル派」との関係も指摘された。先月8日の衆院予算委員会では、自民党の平沢勝栄議員が「(松崎氏が)革マル派の最高幹部の一人と認識しているか」と岡崎トミ子国家公安委員長に質問。岡崎氏は松崎氏について「幹部の一人であると思っている」と答弁し、その後「創設時の幹部の一人である」と答弁を修正していた。

カリスマ指導者・松崎氏の死去でJR総連や労使関係はどう変化するのか？

今日まで革マル派最高幹部であったとみられ、JR内革マル派やJR総連・東労組執行部が尊崇してきた松崎氏の死去は、彼らの組織にどのような影響をもたらすのであろうか。次号より検証を進めていきたい。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>